

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

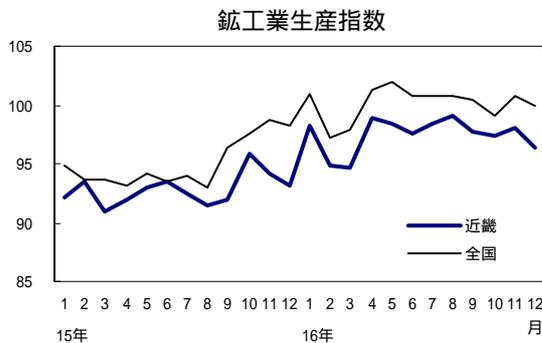
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

一般機械は、アジア向け輸出の好調もあり、フラットパネル・ディスプレイ製造装置や半導体製造装置が増加したことから、全体でも増加している。化学は、フェノールなどが増加したものの、合成洗剤や医薬品が減少しており、全体ではおおむね横ばいとなっている。電気機械は、リチウムイオン蓄電池が増加したものの、エアコンが前期に猛暑の影響で増加した反動で減少したため、全体では減少に転じている。食料品・たばこは、清涼飲料や調味料が減少したことから、2四半期連続で減少している。電子部品・デバイス、固定コンデンサや液晶素子が減少したため、3四半期連続で減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成16年12月の近畿は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

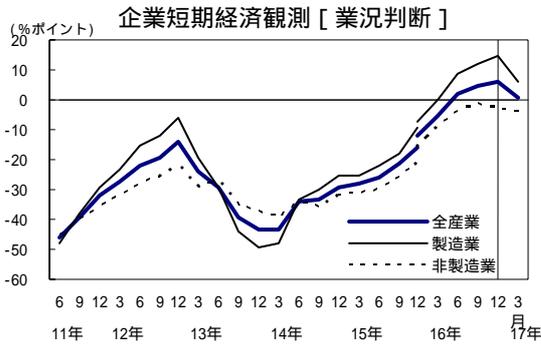
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	15.0	0.5	3.3	3.1	7.8
化学	12.8	1.3	0.1	1.2	1.4
電気機械	10.1	5.4	4.2	5.8	12.3
食料品・たばこ	8.1	1.2	1.3	0.1	29.0
電子部品・デバイス	7.9	1.7	7.7	5.1	1.0
鉱工業	100.0	0.1	1.1	0.4	2.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

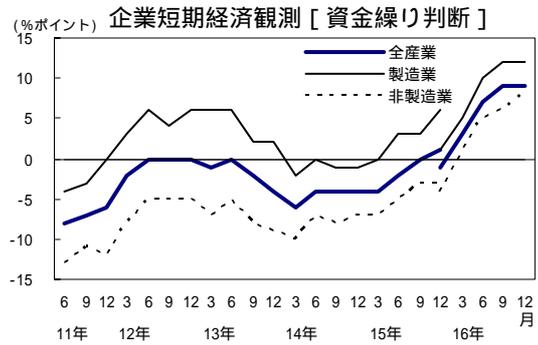
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

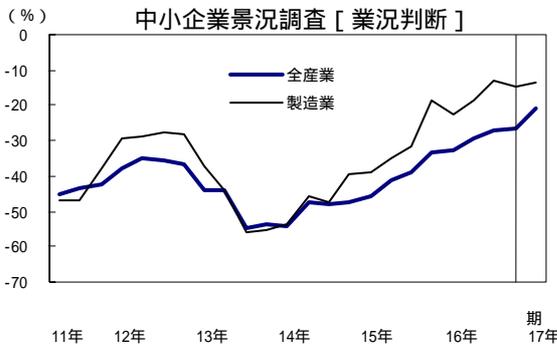
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年3月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

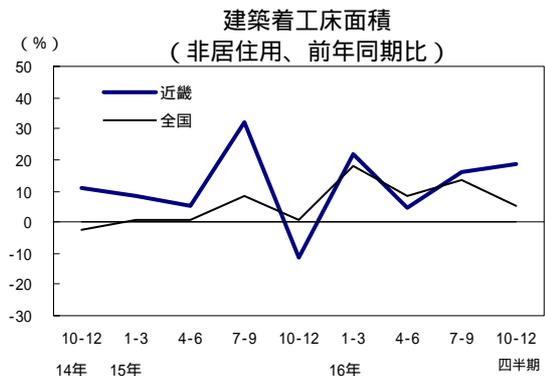
「大手企業は増産のための設備投資を積極的に行っている一方、中小企業は品質の向上、コストダウンのための設備投資を中心に行っている(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	15年度実績	16年度計画
全産業	3.2	8.4(0.8)
製造業	13.4	14.6(0.6)
非製造業	3.4	3.6(2.0)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

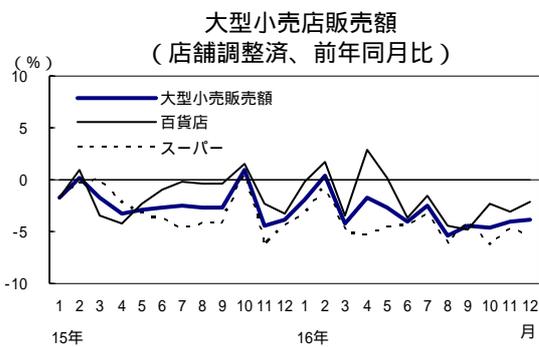
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、昨年プロ野球優勝関連セールスの反動に加え、気温が高めに推移したため衣料品が不調であり、前年を下回った。11月は、歳暮ギフトやおせちの早期受注等により、飲食料品が前年を上回ったが、引き続き気温が高かったため衣料品が振るわず、前年を下回った。12月は、飲食料品が歳暮ギフトの早期受注の反動で不調となり、衣料品は気温の高さに加えてクリアランス前の買い控えが出たため、7か月連続して前年を下回った。なお、近畿百貨店協会によると、大阪地区の1月の売上高は、前年同月比で4.9%増となっている。

スーパーは、10月に昨年プロ野球優勝関連セールスの反動が出たほか、全般に気温が高めに推移したことから重衣料や鍋用食材が不振であり、15年11月以降、14か月連続して前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

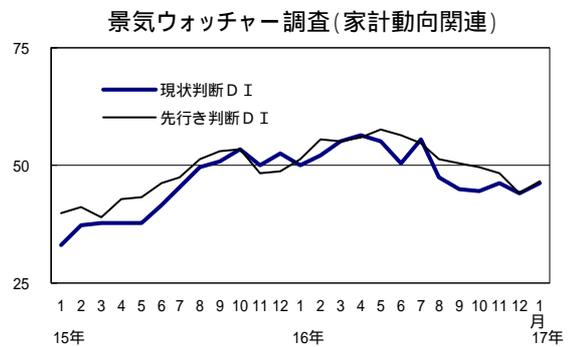
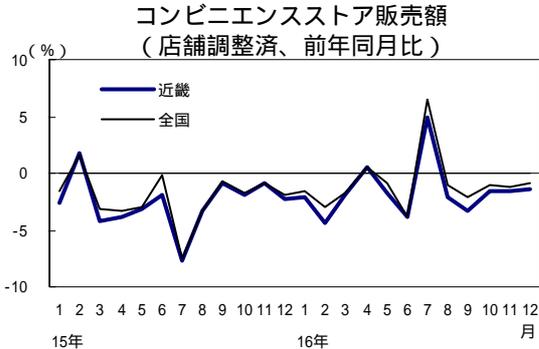
「年始はDVDや白物家電が順調で、予定通りの水準で推移した。デジタル家電の単価の低下を白物家電が抑えたようである(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.0	2.8	4.0	4.1
百貨店	0.8	0.2	3.3	2.5
スーパー	3.0	4.8	4.6	5.5
コンビニ	2.8	1.8	0.2	1.5
景気ウォッチャー	52.4	53.9	49.3	44.8

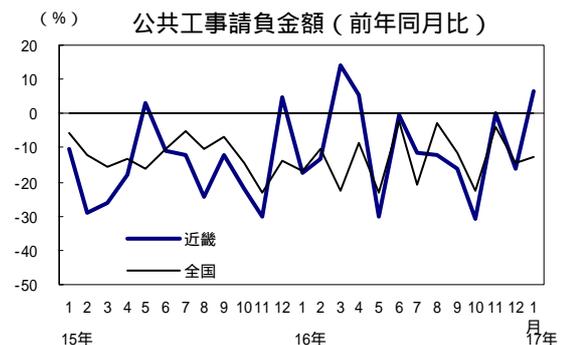
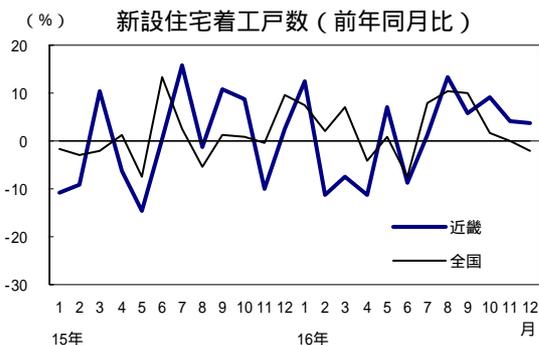
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲、貸家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

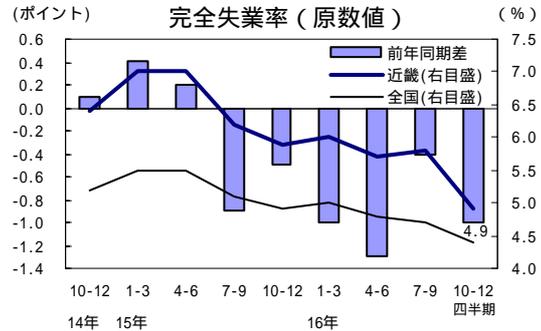


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、改善が続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

「人材派遣の求人広告は増えているものの、人の集まりが悪い。さらに、広告が料金の安い情報誌に集中している(新聞社[求人広告])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	17年1月
倒産件数	924	827	840	815	240
(前年比)	7.5	17.3	6.6	9.5	22.3
負債総額	6,071	2,799	3,796	6,128	1,635
(前年比)	22.2	54.2	50.3	3.7	2.3



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・インド洋大津波の影響でアジアのリゾート全体が落ち込んでいるが、旅行者数は国内、海外共に堅調である。しかし、単価については競争が激しく、一段と下落している(旅行代理店)

<先行き>

・鋼材などの品不足で仕入価格が高騰する中、当社は材料確保のめどがしたが、同業他社はめどがついていないため、当社への注文が増える(金属製品製造業)

景気ウォッチャー調査(合計)

